

ごあいさつ Introduction



学校法人河合塾
教育研究開発本部
本部長

前田 康宏

教育に携わるものとしての社会的責任

河合塾の前田と申します。

ジェネリック・スキルを測定・評価する「PROGテスト」は、リクルートの関連会社である株式会社リアセックと学校法人河合塾と共に共同で研究に取り組み、開発してきたものです。河合塾の立場から、ここに至った背景について少しお話したいと思います。

ご存知のように、河合塾は、模擬試験の実施と入試結果調査を通して入試難易ランキングを作成しています。入試難易度は、受験指導を行う上では有効な基準となっていることは言うまでもありません。しかし、はたしてそれだけでよいのかという問題意識を、受験生を大学に送っていく教育機関として持ち続けてきました。それは、私たちには教育に携わる者としての社会的責任があると考えているからです。この間、河合塾では、偏差値という尺度にのみ依存するのではなく、大学の教育内容を調査・分析して、有益な情報を高校生や高校の先生方に届けようという活動に取り組んできました。それが、全国の大学を対象にした、専門教育調査や初年次教育調査であり、直近ではアクティブラーニング調査です。

一方、その過程で、アウトカムズをどう評価・測定するかにも、着目してきました。受験生を指導していると、スタートは同じ偏差値でも、その後、大きく偏差値を伸ばす生徒が存在することを実体験として持っています。その要因には、教科科目の知識・理解の定着だけではなく、別の要素があり、それは何かというと、おそらく基礎学力と呼ぶべき能力だろうと考えています。

これまで5教科の学力をつけさせることが、私たちの使命だと考えてきました。しかし、知識基盤社会に移行し、世の中が大きく変化しグローバル化していく中で、学力そのものをもっと幅広く捉えて育成していくことが必要となってきています。その幅広い学力の一つの側面が、ジェネリック・スキルです。

このような経緯の中で、リアセックと河合塾との共同研究でジェネリック・スキルを測定・評価する「PROGテスト」の開発に至りました。

近年、高大接続の在り方も大きな問題となっています。高校生に対してジェネリック・スキルをどう評価・育成していくのかも強く求められてくるものと考えています。まさに、私たちの使命と自覚するところであり、引き続いて研究を進めて行きたいと思います。

まだスタートしたばかりであり、さまざまご批判もあるうかと思いますが、皆様方のご意見をいただきながらこの「PROGテスト」を育てて行きたいと考えています。

教育の本質はやはり教師と生徒・学生との魂のぶつかり合いです。その場をより質の高い場へと高めていくツールとして、「PROGテスト」をご活用いただければとお願いする次第です。